

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002.3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 215

日本野鳥の会埼玉県支部

三室探鳥会 200回を迎える！

楠見邦博（さいたま市）

1984年5月20日に始まった探鳥会が、昨2001年12月16日に200回の記念探鳥会を迎えました。大雨や大雪で13回の中止がありましたが、毎月毎月、17年7ヶ月のあいだ楽しくやってきました。当初浦和市立郷土博物館との共催だった探鳥会は、その後支部主催、博物館後援となり、博物館の名前はさいたま市立浦和博物館に変わりました。その間の探鳥会の記録からあれこれと拾ってみました。

黄色のリボンの由来

1994年春、博物館主催の市民探鳥会が開かれることになりました。支部の探鳥会と合流してもよいと了承、協力することにしましたが、市民探鳥会の方の参加者を判別するにはどうしたらよいか。ネルの布を買い、蝶結びにしてピンで留め、小さなリボンを作りました。高倉健と倍賞千恵子の映画「しあわせの黄色いリボン」が私の頭にあったのです。ご存じのように、それ以来リボンは三室の心になり、受け継がれています。

探鳥会のデータあれこれ

いくたびか季節がめぐりいろんなことがありました。そのなかでのデータの一部です。

200回の参加者 総数10,745人(平均54人)

1回の参加者 最多114人 最少14人

200回の出現鳥 総数110種

1回の出現鳥 最多44種 最少16種

フィールドの変化

春にはモクレンやウメ、モモの花が咲き、5月に田植えが行われ、緑一面の見沼たんぼになります。夏には芝川の葦原に鳥たちの子育てがあります。秋は斜面林の木々が色づき、冬は秩父からの冷たい風が吹いている中、カモたちが芝川で遊びます。そんな三室の風景は変わりません。しかし、開発の跡はたくさんあります。芝川の改修、忠兵衛橋あたりの谷地田の開発、斜面林の宅地化、水田の減少、農道の舗装。

環境の変化に伴い、探鳥会のコースはいろいろと変わっていきました。はじめは北宿通りの西側を歩いていましたが、後半は東側が多くなりました。最近また西側にも鳥たちが

戻ってきたようです。

鳥の種類や数の増減を通じて環境の変化を感じてきました。これからも変化を感じることによって、自分たちの自然保護の心を維持し、ささやかでも運動へ参加し、協力したいものです。今回私達は、200回の例会でフィールドに感謝してゴミ拾いを行いました。



ゴミ拾い探鳥会に出発

鳥たちとのドラマ

たくさん鳥たちが、毎回私達を喜ばせ、感動させてくれました。そのなかでもカワセミが1番の人気です。最初のうちはよく出現しましたが、一時姿が見えなくなり、1995年9月の記録に「参加者がカワセミ見たいと言ったとたんに、1994年3月以来出現」とあります。1999年9月の記録には、「芝川に復活したようだ」と記されて、その後は探鳥会のシンボルとなっています。

正月は芝川のタゲリで始まりました。いつもその優雅な姿でみんなを楽しませてくれたタゲリもこの頃は少なくなっていますが、その姿が戻ってくるのが待ち遠しい思いです。ハマシギも冬の風物詩で、1993年2月には白いお腹を見せて多数で飛んでいたのが目に浮

かびます。そして同じ日に、代用水下の1枚の畑にキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイが三色揃い踏みしていたのが面白かった思い出です。キセキレイは、流れの少なくなった冬の代用水に今でもよく現れます。

コサメビタキが初出現した1999年10月は、思ったほど鳥が見えずリーダーも少ししょんぼりしていたその最後に、市立病院の桜の森を下から見ると、ひとつの双眼鏡の中にキビタキ、コサメビタキ、ヤマガラ、シジュウカラと4種が入っていました。その時の光景と興奮は忘れられません。カッコウも初夏の三室を彩ります。前に比べてこの頃はよく出現します。鳥たちの活動はドラマです。その他の出現鳥も私達にたくさんのドラマを与えてくれました。

人々の思い出

いろんな人々がこの探鳥会に来て、思い出を作っていました。よく参加していた地元の小学生がひさしぶりに姿を見せたら、もう大学生になっていて、丁寧にご挨拶。ママに連れられていた子供達も、中学生になりました。時々近くのボーイスカウトの子供達もにぎやかに参加します。子供達が参加するのは楽しいことです。

1997年10月、オーストラリアからアラン・リチャードさんが、日本国内での探鳥の旅の途中、松井前支部長の案内で参加。オーストラリアへも鳥見にどうぞと、国際交流となりました。

1992年7月の100回記念例会には聴覚障害の方が、翌月は視覚障害の方が参加されました。1994年4月にも視覚障害の方が盲導犬と共に参加され、仲間として一緒に鳥の世界に触れていただきました。

リーダーたちのこと

この探鳥会はリーダーだけでなく参加者も一緒に運営するのがモットーですが、たくさんリーダーたちが支え、また新しいリーダーの研修の場としても役立ちました。その中で忘れられないのは、事業部長等の役員をしていたKさん。いつも自転車でやって来て、



集められたゴミを整理

にこやかに話の輪の中心になっていました。大きな声でいつも笑顔のBさんは、探鳥会がそこから楽しくなるお人柄でした。100回記念の時の懇親会での活躍が目には浮かびます。

今は亡きお二人を、いつも見沼の風と共に思い出します。

博物館とのこと

博物館があったから私達の探鳥会が長年続けられたのです。代々の館長さんや学芸員の方々、お世話になりました。企画展など博物館の行事に組み込んだり、館報等に探鳥会の記事を掲載するなどのご配慮をいただきました。毎回場所の提供に加え、リストの作成などもお世話になっています。

最後に

長かったけれど楽しい探鳥会を、皆様の協力のもとに続けられて、嬉しい限りです。これからも黄色のリボンの心を忘れずに、支部探鳥会の原点として活動したいと思っています。それほど珍しい鳥はいないけれど、見沼たんぼの風景と風に会いに、お出掛けください。

私は、いろいろな機会に、見沼たんぼやこの探鳥会のことを話しています。見沼たんぼは私の心のベースになってきました。

もう少し年をとったら、芝川の堤の一角に小さな椅子を置いて、ビールを飲みながら、定点探鳥会でもやりたいと思っています。その時は鳥を見ながら、探鳥会のこと、友達のことをおしゃべりしましょう。では。

2001年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

本調査は22日から24日まで行われましたが、この秋初めての移動性高気圧におおわれ晴天が続き、久しぶりに多数のタカ類の観察となりました。

調査結果

本年も県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境付近、JR八高線

周辺に四ヶ所の調査地（表1）を設けました。種別の観察数（表2）、渡りの方向と推定ルート（表3）、1986年からのサシバの渡りの数（表4）を示します。

おわりに

22日から24日の3日間、21名の会員の皆様のご協力を頂き、誠にありがとうございます。
（小荷田行男）

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査日と調査時間	天候
金勝山 小川少年自然の家 (小川町)	264m	後藤 康夫 他4名	9/22 8:30~13:00	快晴
世界無名戦士の墓 (越生町)	160m	森本 國夫	9/24 8:10~12:00	快晴
物見山駐車場 (東松山市、鳩山町)	130m	櫻本 秀和 他3名	9/22 9:00~12:00	快晴
天覧山山頂	190m	佐久間博文 他11名	9/22 8:00~13:30 9/23 8:00~13:30	晴 晴

表2 タカの渡りの種別観察数

調査地	調査日	ミサゴ	ハチクマ	トビ	オオタカ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	チュウハ	ハヤブサ	チゴハヤブサ	ツミ	タカSP
金勝山 小川少年自然の家	9/22		1	7	3	1	5	118					1
世界無名戦士の墓	9/24			2				2					
物見山駐車場	9/22	1			1			36					
天覧山山頂	9/22		1					200					
	9/23		1					48					

表3 タカの渡りの方向と推定ルート

調査地	主な渡りの方向	渡りの推定ルート
金勝山 小川少年自然の家	北北東→南西	堂平山方向へ
世界無名戦士の墓	南東→南西	?
物見山駐車場	北→南西	
天覧山山頂	北東→南西	

表4 各年の調査日におけるサシバの渡りの数

年	月	日	天候	金勝山	越生山	堂平山	丸山	野見山	物見山	白金平	高橋山	天覧山	緑の内	道明寺	金勝山
1986	10/5		晴	-	6	-	-	-	-	-	52	-	-	-	-
					9/23 31										
1987	10/4		快晴	-	4	-	-	-	28	-	149	-	-	-	-
					9/23 31										
1988	10/2		曇	-	10	-	-	-	19	0	1	-	-	-	-
					10/1 150										
1989	10/1		晴	-	25	-	-	-	100	14	79	150	-	-	-
					9/23 105										
1990	10/10		快晴	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
					9/23 15										
1991	9/29		晴のち曇	13	34	-	-	-	29	-	21	151	-	-	-
1992	9/27		快晴	7	21	6	-	-	10	-	-	31	17	-	-
1993	9/26		快晴	-	19	45	-	-	3	-	-	73	0	-	-
1994	9/25		晴のち曇	-	15	0	-	-	0	-	-	30	-	-	-
									10/2 122						
1995	10/1		晴	-	0	0	-	-	37	-	-	89	-	14	-
1996	9/29		晴	-	0	0	-	-	1	-	-	4	-	-	-
									9/23 5						
1997	9/28		快晴	-	3	9	10	-	1	-	-	30	-	-	-
1998	10/4		晴	-	0	-	3	-	2	-	-	18	-	-	-
1999	9/19		晴	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
					9/23 25										
					9/26 25										
2000	9/23		雨	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-
					9/24 25										
					9/25 25										
2001	9/22		快晴	-	-	-	-	-	36	-	-	200	-	-	118
					9/23 25										
					9/24 25										

注：（ ）は各年における最大値とその観察日

岩槻市長宮 ◇12月22日午前10時30分頃、タゲリ4羽、タヒバリ10羽以上が田んぼにいるのを見ていたら、畦にホオアカ1羽出現。なぜか小さく見えた（鈴木紀雄）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇12月27日午後1時～3時、当地では珍しいトビ1羽、カラスにモビングされていた。セグロカモメ、ユリカモメが元荒川を下流へ。ルリビタキ♀タイプが「ゲッゲッ」と鳴きながら出現。マヒワ7羽が瞬間的水浴びを披露。その他アカハラ、シロハラ、カシラダカ、シメ、カケスなど計39種（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇1月8日午前8時30分頃、上沼周辺のアシ原でクイナ1羽、見通しのよい所でシメ、ツグミとともに採餌。ベニマシコ♂若鳥1羽、タシギ3羽など。午後3時頃、東埼玉病院内でハイタカ1羽、林内を翼をたたんで飛翔。すぐに舞い上がり、上空へ。1月9日午後2時頃、東埼玉病院内でアオゲラ♂1羽。クイタダキが「シーシーシーシー」と金属的5連音で鳴きながらヒバの枝の中を動いていた。ルリビタキは「ゲッゲッ」と聞こえていたが姿は見えなかった。ヤマシギらしきものが飛んだがタシギもいたので確証は得られなかった。1月10日、東埼玉病院内でマヒワ10羽以上。1月16日、東埼玉病院周辺でマヒワ50羽以上の群れ、ピンズイ8羽（鈴木紀雄）。

伊奈町県立がんセンター内 ◇1月10日、ピンズイ約15羽、ヒガラ2羽。今冬は、あちこちでヒガラを見かける（鈴木紀雄）。



ルリビタキ（菱沼一充）

菑蒲町小林 ◇1月13日午後2時、二間堀沿いの田んぼでニューナイスズメ20羽以上。渡良瀬遊水地探鳥会の後、ミヤマガラス、コクマルガラスを探しに行ったが、時間が遅かったのか見つからず。田んぼの中のスズメの群れを詳しく見ていたら発見した。昨年もこの近所で見ている（橋口長和、玉井正晴、田邊八州男）。

さいたま市下山口新田 ◇12月31日午後2時頃、上空を舞うノスリ1羽。ハイイロチュウヒ♀1羽、間近の杭にとまったが、私を見てすぐに姿を消した。ベニマシコ♀2羽。1月15日午後3時頃、芝川第一調整池でオオハクチョウ若鳥1羽、親鳥もおらず孤独に見えた。無事越冬して、北へ帰り、仲間と合流してほしい。用水沿いでカワセミ♂、♀、若鳥が縄張り争いか「キーキー」鳴きながら追いかけていた（鈴木紀雄）。

さいたま市指扇 ◇12月31日午後2時、指扇の自宅のある団地上空でノスリ1羽が5羽のハシトガラスにモビングされ、強風とカラスとの戦いに、見事な飛翔技術を駆使しながら、次第に西方へ消えていった（松井昭吾）。

さいたま市秋ヶ瀬公園 ◇1月6日午後2時30分頃、ピクニックの森北縁でオオアカゲラ1羽、頭頂全てが赤く、腹部は桃色に版画のけずり残しのような黒線。午後3時30分、子供の森でアカゲラ♂1羽♀2羽が「グッグッ」と普段聞かない声を出しながら追いかけていた（鈴木紀雄）。

北本自然観察公園 ◇1月7日午後1時～3時、クイナがアシ原で呼び交わし、上空でノスリ1羽。アカハラ、シロハラが多い。「フィーフィー」と梢で鳴くウソ♀1羽。枝にとまっていたカワセミ♂1羽になぜかモズ♀がにじり寄っていた。カメラマンの待つ視線の先にミヤマホオジロ♂3羽♀1羽出現。1月12日午後2時～5時、ルリビタキ♀タイプ、ミヤマホオジロ♂3羽♀1羽、ベニマシコ♂1羽。ツミが飛んでいた（鈴木紀雄）。

久喜市上早見 ◇1月19日、自宅の庭にイカルが来た。最初はカワラヒワかと思ったが、

よくよく見ると嘴が黄色い。フィールドガイドで確認したら、イカルの幼鳥だった。庭には餌台を造って雑穀、みかんを置いているが、普段はスズメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、メジロ、オナガなどがやって来る。初めて飛来したイカルに感動した（西田俊光）。

川越市入間川 ◇12月15日、川越市水上公園の近くの入間川でカワウ約500羽。9時40分頃、所沢方面に飛んでいった（佐久間博文）。

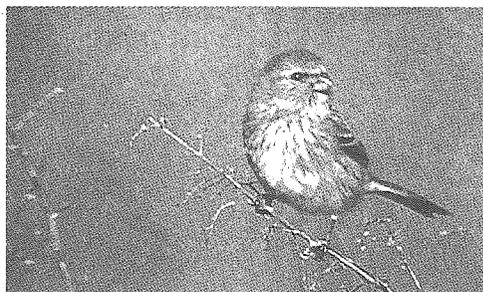
所沢市山口 ◇12月27日お昼頃、自宅隣接の遊水地にクサシギ2羽が飛来した。当地では初めて（小林ますみ）。

狭山市智光山公園 ◇1月8日午前、アカゲラとアオゲラが縄張り争いをしていた。どちらも♂でアカゲラをアオゲラが追いかけて回っていた。ケラが飛び去った後には、カラの混群が。コゲラ、エナガ、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、メジロの6種類だった（小林ますみ）。

嵐山町吉田 ◇1月2日午後1時30分～3時30分、手白神社周辺でガビチョウ3羽、ノスリ1羽、チョウゲンボウ1羽、カワセミ、アカゲラ、シロハラ、エナガ、カシラダカ、アオジ他計24種（後藤康夫・喜久子）。

嵐山町遠道 ◇1月4日午後1時30分～3時、ルリビタキ♂1羽、ベニマシコ♂1羽♀2羽、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、シジュウカラ、コゲラ（後藤康夫・喜久子）。

東松山市物見山 ◇1月3日午前10時～午後1時30分、ハヤブサ1羽、ノスリ1羽、アオゲラ♂1羽、アカゲラ、ルリビタキ♂1羽♀3羽、シロハラ、ヤマガラ、ベニマシコ♀1羽、シメ数羽他計27種（後藤康夫・北村隆）。



ベニマシコ（菱沼一充）

越生町大高取山（376m） ◇1月3日午後1時、山の南側斜面すれすれにノスリ1羽悠々と旋回。何をさがしていたんだろう？（松井昭吾）。

越生町虚空蔵尊奥の谷間 ◇1月18日午後2時頃、ミヤマホオジロ♂2羽が10羽位のホオジロの群れの中に鮮烈な黄色を見せていた。同じ場所でコゲラ、ジョウビタキ♀、エナガ8羽、シジュウカラ、メジロなどが谷川の水を求めて順番に下りてきた（松井昭吾）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇1月12日午前9時30分～午後4時、ソウシチョウ5羽、オオタカ、ノスリ、アカハラ1羽、シロハラ数羽、ルリビタキ、キクイタダキ1羽、ビンズイ数羽、エナガ、ヒガラ、コガラ、ヤマガラ他計44種（後藤康夫、青山絃一、北村隆、新井巖）。

都幾川村多武峯神社 ◇1月14日午前10時～午後1時、マヒワ約60羽の群れ。上空を群れでしばらく飛び、樹上で採餌すると、また飛び回るといった行動を繰り返していた（後藤康夫・喜久子）。

吹上町下忍 ◇1月19日午後3時、ホオアカ4羽、夏羽のように胸に黒と赤褐色の2本の横帯も見られた。ここ2、3年毎冬ホオアカがみられる（逸見嶮）。

表紙の写真

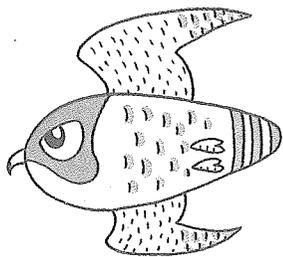
トモエガモ（ガンカモ目ガンカモ科マガモ属）

英名 Baikal Teal 学名 *Anas Formosa*

東シベリアで繁殖し、朝鮮半島・日本・中国で冬を越す。古くは「あじ」とも呼ばれて万葉集に歌われ、日本で数万羽の群れが見られたという。埼玉県内でも、10数年前までは久喜市昭和池で100羽以上の群れがよく観察された。近年急速に数が減って、県内の一部の池や沼で数羽程度が観察されるだけになってしまった。減少の理由はわからない。

撮影：島田恵司 解説：編集部

行事あんない



(何森 要)

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月3日(日)

集合：午前8時50分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、田中、中村(榮)、吉安、長嶋、長野、松永、榎本(建)

見どころ：3月は鳥たちの食べ物が一番少なくなると言われています。アシ原の鳥も餌を求めて道端に出て来ますが、驚かさないように、そっと見ましょう。春の装いを見せ始めている周囲の草木も眺め、季節も味わいましょう。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月3日(日)

集合：午前9時10分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道熊谷8:17発、8:41発(特急)、または東武東上線川越8:01発にて、小川町乗継で寄居行きに乗車。

担当：小池(一)、井上、後藤、堀(敏)、堀(久)、大澤

見どころ：早春の荒川周辺をゆっくり歩きな



キンクロハジロ(小川力雄)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

がら冬鳥や、野草をじっくりと観察します。河原ではヤマセミくんがお出迎えてくれるかも。河原を歩きますのでそれなりの靴でご参加ください。

加須市・はなさき公園探鳥会

期日：3月9日(土)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口、または午前9時はなさき公園駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:01→久喜8:22着にて、東武伊勢崎線春日部8:13→久喜8:28発に乗車→花崎8:40着。

担当：中里、玉井、田中、長嶋、田村、宮下
見どころ：木々も芽吹き始めています。植物園もにぎわいをとり戻してきました。まもなく北に旅立っていく冬鳥たちとの出会いを楽しみましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原

見どころ：そろそろコハクチョウをはじめ、冬鳥の渡りが始まり、明戸堰上流の採餌場周辺もさびしくなります。でも緑が増え可憐な草花とともに夏鳥も現れます。どんな鳥に会えるか楽しみです。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月10日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、森（力）、吉岡（洋）、日根、松村、百瀬、渡辺（嘉）

見どころ：春の音が聞かれだすころ。見沼田んぼには生命の息吹が満ちあふれ、春の花々が顔をのぞかせ始めました。そんな中、渡り前の冬鳥たちを探して歩きます。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月10日（日）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北側入り口駐車場横広場。

交通：東武伊勢崎線北越谷下車、東口1番バス乗り場から8：50発エローラ行きにて「松伏高校前」下車。

担当：田邊、橋口、神場、大塚、小菅、土澤、本田

見どころ：天然記念物のシラコバトが確実に見られます。他に珍鳥の出現は望めませんが、旅立ち前の冬の鳥、新着の夏の鳥をじっくりと観察しましょう。もちろん留鳥も忘れずに。

「しらこぼと」袋つめの会

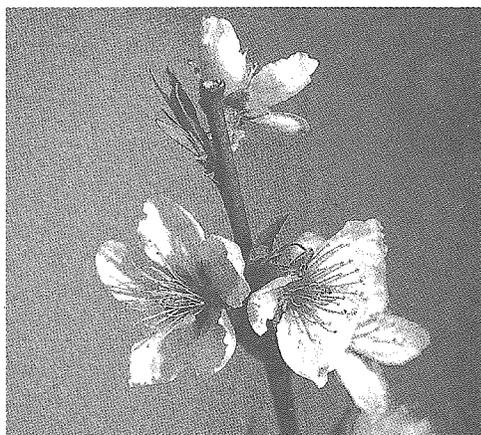
期日：3月16日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：行事が多くてなかなか案内欄がとれませんが、いろいろとやっていますのでご参加をお待ちしています。



亜種アカウソ（海老原美夫）



モモの花（山内 元）

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月17日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、新部、小菅

見どころ：見沼の里の春。モモやモクレン、レンギョウ、ユキヤナギの花々が咲き乱れ、花、鳥、虫、生きとし生けるものがにぎわいを取り戻す。そして私たちも自然から元気をもらおう。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月17日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：24→坂戸にて越生線乗り換え8：43発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎにて、坂戸乗り換え。JR川越線大宮7：55→川越にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、久保田、志村、増尾、佐藤（壮）、藤沢、山田（義）、杉原

見どころ：芽吹きと同じくして活動した昆虫を探し、小鳥たちが活発に飛び回る様子や、営巣地を探すヤマセミを今年も観察できることを期待しましょう。河川敷を歩きますのでそれなりの支度でご参加ください。

長瀬町・宝登山探鳥会

期日：3月17日（日）

集合：午前9時40分、秩父鉄道長瀬駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8：17発、8：41発（特急）。（西武鉄道方面から適当な乗りつぎはありません。）

担当：小池（一）、佐久間、青山、井上、堀（敏）、堀（久）、堀口、大澤

見どころ：山道のタンポポヤスマレ、ベニマシコ、木々の新芽にウソヤマヒワ、今年もちょっとした発見と感動があるかもしれません。スギ花粉の舞う時季、それなりの対策と山道歩きの用意もお忘れなく。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月24日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光

見どころ：「鳥」の合言葉があれば、誰とでも話ができます。初心者の方、一人での参加の方も大歓迎です。心配はありません。探鳥会では新しい発見がいつもいっぱいです。気軽に参加し、リーダーたちに話しかけてください。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月24日（日）

集合：午前9時15分、東武日光駅前。集合後バスにて「総合会館前」まで移動。



タゲリ（鳥田恵司）

交通：東武伊勢崎線春日部7：42発「快速」日光行きに乗車、または栗橋7：42→板倉東洋大前にて、8：09発「快速」に乗り換え。

解散：午後2時ごろ、日光東照宮前にて。

担当：玉井、田中、中里、福井

見どころ：大谷川沿いに神橋を通り、稲荷川に沿って滝尾神社までのおなじみのコースです。カワガラス、ミソサザイと埼玉の平地では少ない山の鳥たちに期待しています。アフターには東照宮見物も結構ですね。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月31日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口より、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8：52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、栗原

見どころ：何とはなくうきうきする陽気、鳥を見ながら花見もしたいけれど、残念ながら花はまだちょっと早いのです。旅立ちを間近にして何かと多忙な鳥たちを観察して古墳を巡りましょう。

秩父市・羊山公園探鳥会

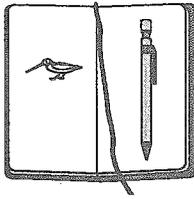
期日：3月31日（日）

集合：午前9時30分、西武鉄道西武秩父駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8：17→御花畑9：24下車、徒歩約5分で西武秩父駅前に。または西武鉄道所沢8：04発（快速急行）にて9：14着。現地集合の方は公園入り口近くの大駐車場。

担当：海老原、佐久間、福井、青山

見どころ：なだらかな丘の小道をのんびりと歩きながら、山の小鳥をいろいろ探しましょう。運が良ければウソにアトリ、マヒワ、ルリビタキなどなど。こんなに見られたら、多少のスギ花粉も許せてしまいますね。さあ、しっかりマスクをして、運だめし！



行事報告

9月22日(土) 松伏町 松伏記念公園周辺

参加：23人 天気：曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ イソシギ チュウシャクシギ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 今回は松伏町中央公民館と共催。この時季はシラコバトのほか田圃ではサギ科の鳥6種が見られる。今回はチュウシャクシギまで出でくれ、全員がゆっくりと観察できた。(橋口長和)

10月28日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：48人 天気：曇りのち雨

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミサゴ オオバン イカルチドリ ダイゼン ハマシギ アオアシシギ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ コアジサシ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ メジロ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 予報では午後から雨。集合時には今にも降りそうな空だった。谷中湖には毎年お目にかかるカモはほとんど入っていたし、シギ・チも多かった。途中から雨が降り始め、東橋で本降りとなったので中の島に戻り、鳥合わせを行い早めの解散となった。(橋口長和)

11月25日(日) 狭山市 入間川

参加：32人 天気：快晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ トビ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ

ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 91年11月の定例化から今回まで、10年間に57回の探鳥会が行われた。参加者は延べ1511人、出現鳥は92種。この記録は大変貴重なものであるが、探鳥会の働きや効果は記録に残らないものが多く、むしろそちらのほうが重要かもしれない。リーダーとして自分は何をしてきたのか。これからしなければならないことは何か。ここでもう一度考え、今後に活かしたい。(長谷部謙二)

12月2日(日) さいたま市 民家園周辺

参加：31人 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ バン オオバン タゲリ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) たくさんの種類の鳥たちに会うことができたが、昔(といっても数年~10年前)と比べ、ほんとうに個体数が減った。探鳥会の途中でも、芝川の大規模な護岸工事?を行っていたし、車の通らない有料道路はできるし……。この先どうなっていくのか。(伊藤芳晴)

12月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：41人 天気：晴

カワウ トビ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) 強い寒風を避け、ゴルフ場南側の草原を歩い

た。鳥影は少なく、冬鳥はジョウビタキ、カシラダカ、アオジ、シメくらいでさびしかったが、アカゲラが現れ、色をつけてくれた。草原では子孫繁栄に懸命な草の種がズボンにびっしり付いて、自然のしたたかさを思い知らされた。(和田康男)

12月9日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 65人 天気: 晴

カワウ カルガモ コガモ オオタカ イカルチドリ ユリカモメ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 集合後間もなくオオタカが出現。自然林ではアカハラ、シロハラ、カケスなどが次々に姿を見せた。また、一部の人は、散策の森でルリビタキやアカゲラまで見る事ができた。途中から強風となり、アシ原や元荒川は出現鳥も少なかったが、皆が満足している様子だった。(中村榮男)

12月16日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 56人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ パン キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 疎林地帯では、オオタカが舞い。ノスリは2回も出現で大満足。大集団で、前と後ろが別コースになる珍事もあったが、種は多く出てくれ、大沼ではミコアイサも数羽いて、じっくり見られた。カモが減ったのには驚いた。大沼周辺の木は、雪景色のようなカワウの糞。営巣していて給餌を受けるカワウのヒナも見られた。いつものように、鳥合わせの場にジョウビタキ♀が登場して終了。(内藤義雄)

12月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 73人 天気: 晴

ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ クイナ パン イソシギ セグロカモメ ユリカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 17年7ヶ月やりました200回。みんなにここにて「クリーンアップ」探鳥会。ゴミを拾って、見沼たんぼに参加者一同感謝した。下を向いていたためか鳥見は少しだったが、心が豊かになった1日。これからも楽しい探鳥会を続けたいと誓った。(楠見邦博)

12月22日(土) 加須市 はなさき公園

参加: 17人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 前日の雪とうってかわって穏やかな鳥見日とでスタート。ところが池でカモを見ている頃には風が出てきた。植物園を通る頃には風は次第に激しくなって、ただひたすら下を向いて歩くだけになってしまった。鳥たちも身を潜めてなかなか姿を見せないで、早めに切り上げた。(中里裕一)

12月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

石田市次、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、倉林宗太郎、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松井昭吾、松村禎夫



コハクチョウ (山内 元)

連 絡 帳

●継続検討中一県内鳥類目録と鳥学会目録との関係

当支部の県内鳥類目録は、鳥学会の発表した『日本鳥類目録改訂第5版』に準拠して、2000年3月までの記録をまとめた支部記録委員会の「埼玉県内鳥類目録の改訂」(本誌同年5月号)が最新のものでした。探鳥会のチェックリストもそれに基づいています。

その後、2000年9月に鳥学会の『日本鳥類目録改訂第6版』が発行され、その中で、当支部の目録に直接関係する変更部分は、次の通りでした。

目科の和名変更 ガンカモ目→カモ目、ガンカモ科→カモ科、ワシタカ目→タカ目、ワシタカ科→タカ科、ホトトギス目→カッコウ目、ホトトギス科→カッコウ科

亜科から科への変更 ツグミ亜科→ツグミ科、ウグイス亜科→ウグイス科、ヒタキ亜科→ヒタキ科、カササギヒタキ亜科→カササギヒタキ科

その他 マミジロをトラツグミの後ろに配列移動し、コジュケイを本文からはずして「附録A外来種」に移動。

なお、ヨーロッパトウネン(別名ニシトウネン)、サバンナシトド(別名クサチヒメドリ)の種和名は、それぞれヨーロッパトウネン、サバンナシトドのままでした。

役員会でも検討しましたが、問題は外来種扱いとなって本文からはずされたコジュケイです。例えば外来種であっても、里山環境を代表する鳥のひとつであることと、従来のデータとの継続性の問題が指摘されて、探鳥会リストの中には、なんらかの形で残した方が良いのではないかと、その場合、他の外来種との関係や記録委員会作成目録との関係はどうな

るのか、支部報「探鳥会報告」欄での扱いはどうするかなど、考えなければならない問題があるわけです。

次の探鳥会チェックリストの印刷発行に間に合うように、役員会、各部会、委員会などで、ただ今検討中です。

●3月の事務局 土曜と日曜の予定

- 2日(土) 4月号編集作業。
- 9日(土) 4月号校正。研究部会議。
- 16日(土) 4月号袋づめの会。
- 17日(日) 役員会。

●会員数は

2月1日現在 2,702 人です。

活 動 報 告

- 1月12日(土) 校正作業(海老原美夫、喜多峻次、藤掛保司、山田義郎)。
- 1月20日(日) 役員会議(司会:倉林宗太郎、各部の報告・河川愛護交流会などへの対応・鳥類目録や「sp.」という表示についての意見交換・その他)。
- 1月21日(月) 2月号を郵便局から発送(藤掛保司)。
- 1月27日(日) 本部の評議員会制度検討委員会に出席(海老原美夫)。

編 集 後 記

銚子探鳥会に参加したら、文一総合出版『カモメ識別ハンドブック』の助けで、カモメの仲間が面白くなってきた。幼鳥でも、セグロカモメとオオセグロカモメは確かに違う。(山部)

編集部紅一点のMさんのご希望で「神亀」を持参した。今日の編集作業は異常に早いように感じる。(藤原)

2月号P3の写真印刷が白すぎた!(海)

しらこぼと 2002年3月号(第215号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社